

令和2年度三重県立高等学校入学者選抜実施要項

令和2年度三重県立高等学校の第1学年入学者の選抜は、この要項の定めるところによる。

なお、義務教育学校においては、この要項及び各様式のすべての記載について、中学校等の「第1学年」を「第7学年」、「第2学年」を「第8学年」、「第3学年」を「第9学年」とするものとする。

I 全日制・定時制課程入学者選抜実施要項

第1 共通

1 募集

(1) 応募資格

三重県立高等学校に入学を志願することのできる者は、次のア、イ、ウのいずれかの条件を満たし、かつエ又はオに該当するものとする。ただし、高等学校等に在籍している者を除く。

ア 学校教育法第1条に規定する中学校もしくは特別支援学校の中学部もしくは義務教育学校を卒業した者又は令和2年3月卒業見込みの者

イ 学校教育法第1条に規定する中等教育学校の前期課程を修了した者又は令和2年3月修了見込みの者

(以下、中学校、特別支援学校の中学部、義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を総称して「中学校等」という。)

ウ 学校教育法施行規則(昭和22年5月文部省令第11号)第95条各号の一に該当する者

エ 全日制課程を志願する場合は、原則として保護者とともに県内に居住している者

オ 定時制課程を志願する場合は、原則として県内に居住又は勤務している者

(2) 入学定員

令和2年度三重県立高等学校第1学年生徒の入学定員は、別に告示する。

※ 別表1「令和2年度三重県立高等学校入学者選抜に関する各高等学校別実施要項」

(P.50～57) 参照

(3) 志願できる区域

入学志願できる区域は、「三重県立高等学校通学区域に関する規則」(昭和33年1月三重県教育委員会規則第13号。以下「通学区域に関する規則」という。)に定めるところによる。

(4) 募集方法

ア 志願者の応募手続

(ア) 志願者は、入学願書(様式1)、収入証紙納付書(様式2)及び受検票(様式3)に必要な事項を記入し、収入証紙納付書に入学選抜手数料として、全日制は2,200円、定時制は950円の三重県収入証紙を、受検票には写真を貼付して、在学している中学校等の校長を経由して志願先高等学校の校長に提出する。なお、既に中学校等を卒業した志願者については原則として本人が提出し、県外からの志願者については原則として保護者が提出する。

また、南伊勢高等学校を志願する場合は志望する校舎に提出する。

(イ) 県内居住者で、転居等の事由により、通学区域に関する規則に規定する保護者の居住する住所の属する学区又は当該学区に隣接する学区(以下「志願学区」という。)外の高等学校を志願する者、県外に居住する志願者及び県内に居住していて県外の中学校等を卒業又は卒業見込みの志願者は、「令和2年度三重県立高等学校への志願学区外及び県外からの入学志願者等取扱要項」(P.39～41)に定める手続を行う。

(ウ) 入学願書等を提出し受理された者は、受検票(様式3)を受け取る。

(エ) 納入した入学選抜手数料は、事由のいかんを問わず返却しない。

イ 志願者が在学している又は卒業した中学校等（以下「出身中学校等」という。）の校長の応募手続

出身中学校等の校長は、志願者から提出された入学願書等の記載事項に誤りがないことを確認のうえ、次の手続を行う。

なお、(イ)の手続には、入学者選抜又は入学者選考事務に係る証明書（様式25）の提示を必要とする。

既に中学校等を卒業した志願者については、原則として本人が(イ)の手続を行う。また、県外からの志願者については、原則として保護者が(イ)の手続を行う。

(7) 出願関係書類等の作成

- a 調査書（様式4）を志願者一人につき、選抜ごとに1通作成する。ただし、平成26年3月以前の中学校等卒業者については、卒業証明書をもってこれに代える。
- b 受検票（様式3）の貼付写真の上から、所定のシールを貼る。
- c 令和2年3月卒業見込みの者について、調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）を作成する。（後期選抜のみ）
- d 必要に応じて、通学区域外高等学校入学志願許可申請書等（様式12、様式13-1、様式13-2、様式14）の副申書を作成する。

(イ) 出願関係書類等の提出

a 志願先高等学校長へ提出すべき書類

(a) 入学願書（様式1）、収入証紙納付書（様式2）、受検票（様式3）及び調査書（様式4）を取りまとめ、調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）（後期選抜のみ）を添えて一括提出する。

(b) 県内居住者で、転居等の事由により、志願学区外の高等学校を志願する者については通学区域外高等学校入学志願許可申請書（様式12）を、県外に居住する志願者については三重県立高等学校入学志願許可申請書（様式13-1、様式13-2）を、県内に居住していて県外の中学校等を卒業又は卒業見込みの志願者については三重県立高等学校入学志願届出書（様式14）を上記(a)の入学願書等に添付して提出する。

ただし、県外に居住する志願者のうち覚書等による志願者については、三重県立高等学校入学志願許可申請書に代えて入学志願整理票を提出する。

(c) 遠隔地等の場合で出願関係書類等を郵送する場合は、当該出身中学校等の校長は郵送する旨を志願先高等学校長に直接連絡し、受付締切期限までに志願先高等学校に必着するように送付する。また、受検票等の返送のため、返信用封筒（宛名を記載し、簡易書留相当額の切手を貼付のこ）を同封する。

b 三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出すべき書類

調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）を次により提出する。（後期選抜の志願者がいる場合のみ）

(a) 県内の市町等立中学校等は、令和2年2月27日（木）12時までに当該市町等教育委員会へ提出する。また、各市町等教育委員会はこれらを取りまとめ、令和2年3月6日（金）までに三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出する。

(b) 国立、私立及び県外の中学校等は、令和2年2月27日（木）12時までに三重県教育委員会事務局高校教育課へ提出する。

ウ 志願先高等学校の処理すべき事務

(7) 入学願書等の出願関係書類が適正であると認められる場合には、これを受理し、受検票（様式3）を交付する。

(イ) 出願関係書類を受理する際、通学区域に関する規則第3条第1項に基づいて入学志願しなければならない学科・コースを設置する高等学校にあっては、志願者の志願学区を確認する。

(ウ) 入学願書受付締切後及び志願変更受付締切後、直ちに、志願者数を三重県教育委員会事務局高校教育課へ報告する。

(5) 受検時に特別な配慮を必要とする者の入学志願について

受検時に特別な配慮を必要とする者については、出身中学校等の校長より志願先高等学校長にその旨を申し出る。

申し出を受けた高等学校長は、特別な措置を実施する場合、事前に三重県教育委員会事務局高校教育課の承認を受ける。

(6) 中学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者の入学志願について

学校教育法施行規則第95条第5号の適用を受けようとする者が入学願書を提出したときは、志願先高等学校において先に仮受付を行い、志願先高等学校長が中学校卒業者と同等以上の学力があると認定したとき、正式に入学願書の受付を行い、入学者選抜の対象とする。

2 調査書等の作成

(1) 調査書作成委員会の設置

- ア 調査書（様式4）の作成に当たっては、中学校等ごとに調査書作成委員会を設けて、調査書の公正を期するための審議を行う。
- イ 調査書作成委員会は、中学校等の校長を委員長として組織する。

(2) 調査書（様式4）の作成要領

ア 「1 各教科の学習の記録（評定）」の記入について

(ア) 第1学年及び第2学年について

- ・ 指導要録の「学習の記録」を転記する。

(イ) 第3学年について

- ・ 前期選抜を志願する者については、第1学期及び第2学期の成績を十分加味した12月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

また、二学期制を実施する中学校等については、前期の成績を十分加味した後期の12月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

- ・ 後期選抜、再募集及び追加募集を志願する者については、第1学期及び第2学期の成績を十分加味した第3学期の1月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

また、二学期制を実施する中学校等については、前期の成績を十分加味した後期の1月末現在の成績を、目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）により5段階で評定し、記入する。

イ 「1 各教科の学習の記録（観点別学習状況）」の記入について

「指導要録の記入と取扱い」（平成22年8月三重県教育委員会）に基づき、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、5ページに示す観点ごとに上記②・(2)・ア・(イ)に準じて評価し、A、B、Cで記入する。

ウ 「2 総合的な学習の時間の記録」の記入について

指導要録の記載に準じ、文章で記入する。

エ 「3 特別活動の記録及び行動の記録」の記入について

特別活動及び行動の状況について、項目ごとに個性や長所を積極的に評価し、十分満足できる場合に○印を記入する。

オ 「4 出欠・健康の記録」の記入について

(ア) 第1学年及び第2学年について

- ・ 指導要録の「出欠の記録」を転記する。

(イ) 第3学年について

- ・ 前期選抜を志願する者については、令和元年12月末現在において記入する。
- ・ 後期選抜、再募集及び追加募集を志願する者については、令和2年1月末現在において記入する。

(ウ) 「欠席理由の主なもの」の記入について

- ・ 各学年とも、引き続き7日以上欠席した場合に、その主な理由を記入する。また、断続して20日以上欠席した場合についても、その主な理由を記入する。

(エ) 「健康の状況」の記入について

- ・ 健康状況全般に関して、進学後特に配慮を必要とする事項について、文章で記入する。

カ 「5 その他参考となる諸事項」の記入について

上記イからオで表記したこと以外に、志願者の長所、特技、生徒会活動、スポーツ活動、文化活動、職場体験活動、社会活動、ボランティア活動歴等について、積極的に記入する。

キ 既に中学校等を卒業した者について

指導要録の記載を転記するが、上記アからカに準じるものとする。なお、選択教科の評定については記入しない。

ただし、平成26年3月以前の中学校等卒業者については卒業証明書をもってこれに代える。

(3) 調査書の各教科の学習の記録の評定分布表（様式5）の作成要領

中学校等の校長は、次の要領により作成する。

ア 第3学年全員について、後期選抜における評定を対象として作成する。

イ 教科別、評定別に生徒数を記入する。「合計人数」の欄には、各教科の合計人数を記入する。また、各教科の評定別生徒数の合計人数に対する割合（％）を記入する。

なお、教科により合計人数が異なる場合は、その理由を備考欄に記入する。

ウ 「調査書作成委員会の記録」を記入する。

□観点別学習状況の観点について

教科	番号	観 点
国 語	①	国語への関心・意欲・態度
	②	話す・聞く能力
	③	書く能力
	④	読む能力
	⑤	言語についての知識・理解・技能
社 会	①	社会的事象への関心・意欲・態度
	②	社会的な思考・判断・表現
	③	資料活用の技能
	④	社会的事象についての知識・理解
数 学	①	数学への関心・意欲・態度
	②	数学的な見方や考え方
	③	数学的な技能
	④	数量や図形などについての知識・理解
理 科	①	自然事象への関心・意欲・態度
	②	科学的な思考・表現
	③	観察・実験の技能
	④	自然事象についての知識・理解
音 楽	①	音楽への関心・意欲・態度
	②	音楽表現の創意工夫
	③	音楽表現の技能
	④	鑑賞の能力
美 術	①	美術への関心・意欲・態度
	②	発想や構想の能力
	③	創造的な技能
	④	鑑賞の能力
保健体育	①	運動や健康・安全への関心・意欲・態度
	②	運動や健康・安全についての思考・判断
	③	運動の技能
	④	運動や健康・安全についての知識・理解
技術・家庭	①	生活や技術への関心・意欲・態度
	②	生活を工夫し創造する能力
	③	生活の技能
	④	生活や技術についての知識・理解
外国語	①	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
	②	外国語表現の能力
	③	外国語理解の能力
	④	言語や文化についての知識・理解

3 選 抜

(1) 基本方針

入学者の選抜については、調査書（様式4）、学力検査及びその他選抜のための資料に基づき、各高等学校長が公正かつ的確に行う。

なお、調査書中の「各教科の学習の記録」以外の記載事項についても積極的に活用し、健康の状況については、修学の可否の判定のみに用いることとする。

(2) 入学者選抜委員会

各高等学校は、入学者選抜事務の公正かつ適正な遂行のため、校長を委員長とし、下記の事務を遂行するために必要な校務分掌担当者を含め、適切な人数で構成する入学者選抜委員会を設置する。

各高等学校は、入学者選抜委員会についての内規を定める。

ア 学力検査実行管理に関する事務

- ・ 学力検査当日の監督等の役割分担作成及び運用に係る事務
- ・ 学力検査会場の設営に係る事務
- ・ 学力検査問題等受領、点検及び整理に係る事務
- ・ その他校長が必要と認める事務

イ 入学者選抜に関する事務

- ・ 中学校等からの入学願書及び選抜資料の受領、点検及び整理に係る事務
- ・ 採点に関する職員の役割の分担に係る事務
- ・ 各教科の採点基準作成及び決定に係る事務
- ・ 面接又は「自己表現」、作文又は小論文、実技検査等についての評価基準の作成及び評価に係る事務
- ・ 解答用紙等の管理及び採点の監督に係る事務
- ・ 選抜資料のコンピュータへのデータ入力等に係る事務
- ・ 採点結果の点検に係る事務
- ・ 合否判定の原案及び資料の作成に係る事務
- ・ 合格通知書作成等の合格者発表に係る事務
- ・ 個人情報提供に係る事務
- ・ その他校長が必要と認める事務

なお、前期選抜等を実施する学校においては、その選抜を実施する学科・コースの特色等により、後期選抜とは異なる構成員の委員会を設けることができる。また、上記の委員会をその果たす役割から、学力検査実行管理委員会と入学者選抜委員会との2つの委員会に分けてもよい。

(3) 合否判定会議

各高等学校は、原則としてすべての教員で構成する合否判定会議を設置する。

(4) 合格者の決定

合格者は、合否判定会議の審議に基づき、各高等学校長が決定する。

4 その他

桑名高等学校衛生看護科は、高等学校衛生看護科と専攻科をあわせた5年一貫教育を行う。四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科の入学者選抜実施要項は、別に定める。